

ヒノキ林に発生したならたけ病

1 研究のねらい

近年、県内のヒノキ幼齢造林地でしばしば発生しているヒノキのならたけ病の被害実態を明らかにする。

2 研究方法と結果

調査方法：県内各地の被害林5林分を対象に被害状況を調査し、このうち一関市において発生経過を追跡調査した。

結 果

- (1) 被害は県南から県北まで見られ、6～11年生、特に7年生前後の林分が多かった。
- (2) 被害は数年間にわたって発生しており、全葉の褐変、一部褐変、黄変など様々な症状を呈していた。
- (3) 被害木は集中的に発生し、林内に空地ができていく場合が多かった。
- (4) 被害は広葉樹の伐根が多い所に集中していた。
- (5) 被害木の多くは、根が鳥足状など異常な形をしていた。

- (6) 一関市の被害林では、発見当時（7年生）31本であった被害木が5年後（11年生）には53本になり、この年で被害は終わった。

3 結果から考えられること

- (1) 被害は、広葉樹の伐根でならたけ菌が増えていることに加え、根の異常によってヒノキが衰弱状態になっていたため発生した。
- (2) 被害は約5年間続いた後、自然に終わる。

4 成果の活用

- (1) 植栽時には苗木を（ヒノキに限らず）丁寧に植える。特にナラ類の伐根の多い所は注意を要する。
- (2) 発生している被害の拡大を薬剤等で止めることは極めて困難なので、自然終息を待って（5年位）、補植等の対策を講ずる。



被害林分では様々な症状がみられる



ナラタケの子実体（左）と菌糸膜（右）



枯死木の根（一畝植えの結果）

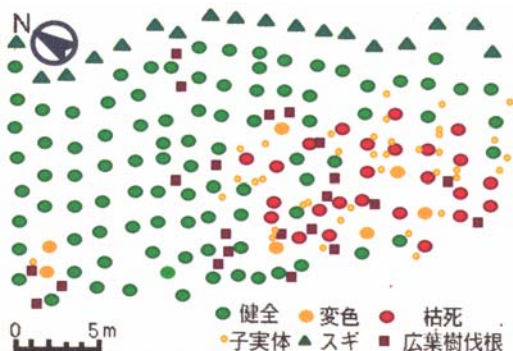


図-1 被害木の分布（一関市の例）

《写真協力：花巻地方振興局 林業改良指導員 中村文治 氏》

（担当 森林資源部 専門研究員 小岩 俊行）

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL 019-697-1536
 岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>